

令和 2 年度病虫害発生予察予報第 6 号（9 月）

令和 2 年 9 月 3 日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稻（普通期稲）	いもち病（穂いもち） ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	<u>多(中西)</u> 、平年並(西)、やや少(東、中央) <u>多(中央、中西、西)</u> 、やや少(東) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(中西)、やや少(東、西) <u>多(西)</u> 、平年並(中央)、やや少(東、中西) <u>やや多(西)</u> 、やや少(中央、中西)、少(東) <u>多(県下全域)</u> <u>多(県下全域)</u> <u>多(県下全域)</u>
かんきつ類(温州みかん)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>
かんきつ類（中晩柑類）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	<u>多(西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、少(中央、中西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東、西)</u> 、平年並(中西) <u>多(県下全域)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東、西)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報（高松地方気象台 8 月 27 日発表）

＜特に注意を要する事項＞ 8 月 29 日から 9 月 28 日

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

＜予想される向こう 1 か月の天候＞

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は、高い確率 80% です。降水量は、平年並または多い確率ともに 40% です。

週別の気温は、1 週目は、高い確率 80% です。2 週目は、高い確率 80% です。

3 ～ 4 週目は、高い確率 60% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	10	80	
		降水量	20		40	40
		日照時間	40		30	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	10	80	
2 週目		10	10	80	
3 ～ 4 週目		10	30	60	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：8 月 29 日（土）～ 9 月 28 日（月）

1 週目：8 月 29 日（土）～ 9 月 4 日（金）

2 週目：9 月 5 日（土）～ 9 月 11 日（金）

3 ～ 4 週目：9 月 12 日（土）～ 9 月 25 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻（普通期稲）の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：多(中西部)、平年並（西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

(1) 穂いもちは、8 月の調査では、県中西部のみで発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年並であった。また、葉いもちは、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年並、その他の地域では平年よりもやや少なかった。

(2) 9 月は晴れの日が多いが、降水量は平年並または多いと予想されていることから、感染に好適な条件もあり、8 月に発生が見られなかった地域でも発生が見られるようになると考えられる。

対 策

(1) QoI 剤の使用回数は、耐性菌の発生を防止するため、作期を通じて 1 回とする。

2) ごま葉枯病

予 想 発生量：多（中央部、中西部、西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部を除いた地域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、中西部、西部でやや多かった。発生程度は、各地域とも平年並以下であった。
- (2) 9月は晴れの日が多く、気温が高いと予想されているため、肥切れが助長され、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では薬剤防除を行う。

3) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（中西部）、やや少（東部、西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年並、中西部で平年よりもやや少なく、東部と西部では少なかった。発生程度はいずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 9月は晴れの日が多く、気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、実入りが悪くなることがあるので、薬剤防除を行う。

4) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（西部）、平年並（中央部）、やや少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部を除いた地域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや少なく、中西部で少なかった。発生程度は、各地域とも平年並以下であった。
- (2) 9月は晴れの日が多く、気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫による直接被害は少ないが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

5) セジロウンカ

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（中央部、中西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部、中西部で平年並、東部では少なかった。発生程度は中西部で平年よりもやや高かったが、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) セジロウンカは、ほ場への定着性が低く、出穂期以降はほ場から離脱するため発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降に吸汁されると黒点米に似た被害粒が発生することがあるので、発生に注意し、高密度の場合には防除する。

6) トビイロウンカ

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は各地域とも平年よりも多かった。発生程度は、中央部で平年よりもやや高く、その他の地域は平年並であった。また、九州や中国・四国地区の他県でも多発しているところが多い。
- (2) 9月は晴れの日が多く、気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件となることから、発生は増加すると考えられ、坪枯れなどの被害の発生が予想される。

対 策

- (1) 株元に寄生するので、薬剤が株元に十分かかるように防除する。

7) コブノメイガ

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は各地域とも平年よりも多かった。発生程度は、西部で平年よりも高く、中央部でやや高く、東部、中西部は平年並であった。
- (2) 9月は晴れの日が多く、気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 止め葉の被害葉率が20%を超えると減収になるので、発生が多い場合には薬剤防除を行う。

8) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、中西部でやや多く、東部、西部は平年並であった。ほ場当たりの発生虫数は、中央部、西部で平年よりも多く、東部、中西部は平年並であった。
- (2) 9月は晴れの日が多く、気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤（ネオニコチノイド剤等）を用いる。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度は平年並であった。
- (2) 9月は晴れの日が多いものの、降水量は平年並または多いと予想されている。気象予報からすると、大幅な発生の増加はなく、時期的にも果実の感染リスクが低いことから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度はやや低めであった。
- (2) 9月は晴れの日が多いものの、降水量は平年並または多いと予想されている。気象予報からすると、大幅な発生の増加はなく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年よりもやや多く、発生程度は高かった。
- (2) 9月は晴れの日が多いと予想されていることや、高温期を過ぎ本虫の増殖に好適な時期を迎えるため、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（西部）、やや多（東部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部、西部で発生が見られた。西部では発生面積が平年よりも多く、東部ではやや多かった。発生程度は両地域ともに平年並であった。
- (2) 9月は晴れの日が多いものの、降水量は平年並または多いと予想されている。気象予報からすると、大幅な発生の増加はなく、時期的にも果実の感染リスクが低いことから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（東部、西部）、平年並（中西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、東部と西部でやや多く、中西部で平年並であった。発生程度は各地域ともに平年並以下であった。
- (2) 9月は晴れの日が多いものの、降水量は平年並または多いと予想されている。気象予報からすると、大幅な発生の増加はなく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は各地域ともに平年よりも多く、発生程度は中西部で平年よりも高く、その他の地域は平年並であった。
- (2) 9月は晴れの日が多いが、降水量は平年並または多いと予想されていることや、台風の影響も懸念されるなど、感染に好適な気象条件が予想されることから、発生が増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（東部、西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部で平年並、東部、西部では少なかった。発生程度は中央部で平年よりもやや高かったが、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) 9月は晴れの日が多いと予想されていることや、高温期を過ぎ本虫の増殖に好適な時期を迎えるため、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.